

令和8年度 公開講座を開催しました！

令和8年7月30日、本校のセンター的機能に係る事業として、小中学校の先生方向けの公開講座を開催しました。「子どものつまずきと構造化の関係を考えよう!」というテーマで、さいたま市総合療育センターひまわり学園の作業療法士 石塚絵梨子先生にご指導いただきました。

公開講座の様子をご紹介します。

受付をして会場に入ると

あまりにも、雑然とした会場に
「どこに座ったらいいの？」
「前はどっち？」
「落ちているものは拾ったほうがいいの？」など、不安が・・・
中には「何が始まるのだろう？」とわくわくした方も



開会行事もなく、突然、 公開講座が始まる

「どこで話しているの？」
「講師が見えないんだけど」
「もう、始まったの？」
など、何の見通しもなく、公開講座が始まりました。



具体的な指示もなく、自己紹介

「自己紹介どうすればいいの？」と顔を見合わせます。
だれかが「順番に」と声をあげてくれて、見通しが立って、少し安心感が・・・



「自己紹介まで」で困ったことを伝え合う

録画（自分たちの様子）を見ながら、話し合いました。
「雑多な空間って、気持ちが落ち着かない」
「物が落ちていて不快だった」
「いつは始まるの？どうすればいいの？など見通しが持てず、不安だった」
「不安が募ってイライラした」



困ったことについて、どうしたいか話し合う



「不要なものが気になるので片付けを」「目に入るところの整理整頓」「予定があると安心」「案内やルールが明確なら不安は解消される」「空間が整理され、わかりやすくなっていると安心できる」など、実感したことをもとに、解決方法を話し合いました。

話し合いをもとに、構造化された環境にしてみよう



実際、構造化された環境に身をおくと・・・



実際、構造化された環境に身を置くと、
「安心するなあ」
「落ち着くなあ」と実感。

「構造化された環境」と
「構造化されない環境」を
体験したのちに、石塚先生
の講義を聴き、理論と結び
つけました。

講義「子どものつまずきと構造化の関係を考えよう」



環境を整えると言っても、何をする環境なのかで大きく変わることを実感することができました。
何をするための場なのか、がすぐに分かる構造にしておくことで不安感を減らせると分かり、これからは何のための場なのかを意図した空間づくりを意識していきたいと感じました。

参加者の感想より

講座の冒頭、雑多な環境の部屋に入った際に私自身が強い不安を感じましたが、その後自ら環境を整えるワークを体験したことで、子どもたちにとって視覚的な環境がどれほど大きな意味を持つのかを身をもって実感いたしました。
子どもたちの不安を取り除き、安心して学習に取り組めるよう、今後は教室環境や学習プロセスの構造化を進め、より落ち着いて学べる場づくりに努めてまいります。

雑多な空間を実際に体験し、気持ちが落ち着かないことや、不安な気持ちを痛感しました。子ども達にとっては、この不安な気持ちや落ち着かなさが原因で、指示が通りにくくなったり、感情が落ち着かなくなったりすることがあるのかなと少しだけ子どもたちの気持ちがわかったような気がしました。また、様々な先生方と一緒に構造化について考えることで、たくさんの案が出てきたので、学校で取り組む際も連携しながら行いたいと思いました

環境を構造化することで自律的に動くことができる集団をつくることにつながり、個別の配慮をしやすくなることにもつながることが分かりました。